

「いのちをまもる行動」

福岡県 久留米市立竹野小学校 3年 藤島 風沙

わたしがすんでいる、くるめ市は大雨がふるとよく道路がかん水していました。れいわ5年7月10日、わたしが小学校に入学して、はじめての夏休みがくるすこし前の事でした。

その日は大雨で学校が休校になって、わたしは家で「いつになったらやむのかな？」と思いながらテレビを見ていました。すると、竹野小学校の近くで土しゃくずれがおこったことを知りました。わたしの家は土しゃくずれげんばの近くではないけど、きゅうにふあんになりました。「友だちの家はだいじょうぶかな？」「学校はだいじょうぶかな？」と、とても心ぱいでした。わたしの知っている場所で、こんなにも大きなひがいがあつたんだとテレビにうつる竹野の様子におどろきました。車はたおれて、家の中まで土しゃが入つた様子、竹野ちゅうざい所は土しゃでこわれていました。このさいがいで一人の方がなくなつたことも知りました。

きんきゅうメールがきたら、すぐに行動をしないと、雨がひどくなつた後ではにげたくてもにげられないじょうきょうになると思ひました。この時のさいがいのげんいんは「線じょうこう水たい」という雨雲が同じ場所にながれこんで大雨をふらせたせいでした。わたしは、こんなにも大雨とかみなりがつづいたのははじめてで、とてもこわかつたです。

くるめ市は雨水をグラウンドにためる「雨水ちよりゅうしせつ」や内水はんらんをへらすために、「ポンプしせつ」をふやしています。田主丸町には、むかしのていぼうをこわして、川はばを広げる工事がすすめられていたり、大雨による土石りゅうをくいとめて、下へのひがいをおさえる「さぼうえんてい」のせっちや田んぼダムのせっちがすすめられているそうです。

いつ、どこにおこるか分からないさいがいに、ふだんから家ぞくで話しておくことも大切だと思ひました。わたしの家では、いざという時のために、ひなんにひつようなもの、水、食べ物、かいちゅう電とうなどをそなえておく事、ひなんの指じが出たら、早めに行動をする事が大事だということをお話しました。

今年の夏も、ふくおかでは「線じょうこう水たい」が何ども発生しました。大雨がふるたびに、あの日のこわかつた気持ちを思い出します。きんきゅうメールの音に、心ぞうのドキドキが早くなつてしまいます。竹野小学校では、大雨にそなえて、ほご者への引きわたしくん練をしています。さいがいがおこると、あわててしまうと思うので、くん練は大切だなあと思ひます。いざという時にあわててしまうと、いのちをまもれないと思うのでふだんから、さいがいにそなえて、心のじゅんぴをして、おちついて行動できるようにしたいと思ひます。